

# “産”と“学”とで紡ぐ中小企業イノベーション

～新技術・新製品を生み出す多様な産学連携事例～

変化の激しい市場環境の中で中小企業が生き残るためには、自社の独自性を高めることが求められます。その中で、産学連携は自社の成長につながる有用な手段の一つでありながら、中小企業が成果をつかみ取るには、いくつかの課題があります。

今回の南西フォーラムでは産学連携について、コーディネーター、大学・高専、中小企業の視点から事例等を紹介し、また、首都圏南西地域の産学連携に関するポテンシャルを客観的に見渡すことで、中小企業によるイノベーション創出の多様な可能性を見出すことを目的として開催いたします。

開催日：令和元年  
(2019年)

9月10日(火)

開催時間：16:00-19:30 (15:30より受付開始)

開催場所：青山学院大学 相模原キャンパス

基調講演：E棟1階103 / 分科会：E棟1階105・106

交流会：G棟2階食堂

機器分析センター見学ツアーは14:30から順次ご案内(15:30頃まで)

参加費：無料

定員：150名 (応募多数の場合は申込み順)

申込み：HPまたは申込書をFAX

## PROGRAM

14:30～

青山学院大学 機器分析センター見学ツアー ※希望者のみ。集合場所：K棟・2階ロビー(裏面参照)

プログラム1

16:10～

基調講演 「事例から読み解く、中小企業による産学連携」

E棟103

現在、「産学官連携」という言葉は多方面に広がり、見聞きする機会が増えています。しかし、実際に産学連携を行うとなると、決まったマニュアルやルールがあるわけではなく、それゆえに成功する例、とん挫する例、様々です。

そこで、企業と大学それぞれの立場や状況を受け止め、双方の目的を果たすための伴走者であり、裏方でもある産学官連携コーディネーターの立場から、中小企業が産学連携に至ったきっかけや成果を生み出した事例を紹介し、産学連携の可能性についてお話しします。



講演者

一般社団法人首都圏産業活性化協会  
産学官連携コーディネーター  
(東京都立産業技術研究センター 特任技術アドバイザー)

堺 奈都氏

プログラム2

分科会 A E棟105

「大学等の産学連携推進体制」分科会

17:10～

A-1 青山学院大学 リエゾンセンター 副センター長 黄晋二氏  
(理工学部 電気電子工学科 教授/博士(工学))

「相模原キャンパスを拠点としたリエゾンセンターの取り組みについて」

17:35～

A-2 神奈川工科大学 工学教育研究推進機構 リエゾンオフィス  
コーディネーター 深堀 健一氏

「神奈川工科大学の地域社会・企業への貢献について」

18:00～

A-3 東京工業高等専門学校 総合教育支援センター センター長/准教授 庄司 良氏  
コラボレーションセンター 主任 向川 拓臣氏

「産学連携を企図した新校舎、コラボレーション・ commonsの紹介」

分科会 B E棟106

「中小企業による産学連携」分科会

B-1 有限会社山内エンジニアリング  
営業部長 郡司 章氏

「従業員6名！町工場が挑む大学との新技術開発」

B-2 株式会社メディアプラス  
代表取締役 金沢 勇氏

「産学連携、成功の鍵は“タイミングと目標・役割分担の明確化”！」

B-3 株式会社志成データム  
代表取締役 斎藤 之良氏

「医療機器を主力事業へ！医工連携による自社製品開発」

※各発表内容は裏面をご覧ください。

プログラム3

交流会 G棟2階食堂

18:30～

主催：首都圏南西地域産業活性化フォーラム運営委員会

後援(予定)：関東経済産業局、(地独)神奈川県立産業技術総合研究所、(一社)首都圏産業活性化協会

協力(予定)：相模原商工会議所、町田商工会議所、城山商工会、津久井商工会、相模湖商工会、藤野商工会、(公財)相模原市産業振興財団、相模原市、町田市、多摩高度化事業協同組合、(株)町田新産業創造センター、神奈川県中小企業団体中央会、(株)さがみはら産業創造センター

お問合せ先：首都圏南西地域産業活性化フォーラム事務局

株式会社さがみはら産業創造センター  
〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本 5-4-21  
TEL：042-770-9119 / FAX：042-770-9077  
HP：https://nansei-forum.jp

TITLE

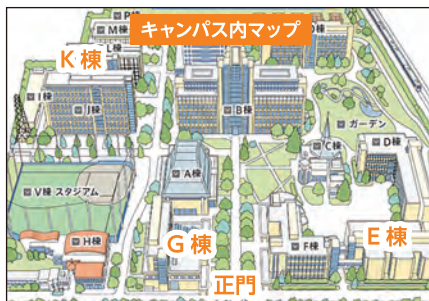
“産”と“学”とで紡ぐ中小企業イノベーション

～新技術・新製品を生み出す多様な産学連携事例～

分科会発表内容一覧

A-1	<p><b>「相模原キャンパスを拠点としたリエゾンセンターの取り組みについて」</b></p> <p>青山学院大学は2017年、「リエゾンプロジェクト」(現リエゾンセンター)を相模原キャンパスに立ち上げ、地域企業との受託研究・共同研究に取り組んでいます。今回は、「学際領域の垣根を越えた研究成果」を広く社会に還元するため、強化した研究支援体制についてお話しします。</p>	B-1	<p><b>「従業員6名！町工場が挑む大学との新技術開発」</b></p> <p>成長分野におけるQ・D・C(品質・納期・価格)への更なるニーズに対して、「町工場」が大学や公設試の知見を取り込みながら、いかにしてものづくり技術の錬成を武器にした生き残りを図っているのか、また、産学連携をきっかけとした新分野進出への可能性についてもお話しします。</p>
A-2	<p><b>「神奈川工科大学の地域社会・企業への貢献について」</b></p> <p>神奈川工科大学では、産業界の要請に応える「知の拠点」として時代を先導する研究を推進し、社会的課題の解決に取り組んでいます。そのために特に社会とのつながり、産官学連携を重視しています。高等教育と同時に研究機関として、本学の産学連携の取組みを、事例を通して紹介します。</p>	B-2	<p><b>「産学連携、成功の鍵は“タイミングと目標・役割分担の明確化”！」</b></p> <p>事業化を見据えた各開発には、とかく“スピード”が求められるため、産学連携となれば、役割が異なる中小企業と大学との密接な関係が必要となります。今回は、企業側が大学側の目的や体制を理解した上で円滑に進めていく産学連携のあり方について、事例を通してお話しします。</p>
A-3	<p><b>「産学連携を企図した新校舎、コラボレーション・commonsの紹介」</b></p> <p>この新校舎は、東京高専が次世代を担う技術者の育成を目指して取り組んでいる「社会実装教育」の拠点となります。「社会実装教育」とは産学連携を通して、学生が社会の様々な課題に対するプロトタイプを試作し、実際に社会で使用して評価を受け、改善するという一連のサイクルを体験する教育プログラムです。</p>	B-3	<p><b>「医療機器を主力事業へ！医工連携による自社製品開発」</b></p> <p>志成データは今年6月に非侵襲で血管の硬さを測定する新たなシステムを発売しました。医療分野への本格参入にあたって、臨床の知見を求めために学会に飛び込み、手探りで協力者を探すことから始まりました。今回は、大学などの医療関係者との信頼関係の継続と独自の事業領域の構築についてお話しします。</p>

ACCESS 青山学院大学 相模原キャンパス



会場：青山学院大学 相模原キャンパス  
住所：神奈川県相模原市中央区淵野辺 5-10-1  
交通：JR 横浜線「淵野辺駅」北口より徒歩約10分  
※キャンパス内には駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

＜機器分析センター見学ツアーの集合・受付場所＞  
K棟(最先端技術研究開発センター)2階ロビー  
14:30 から順次ご案内(15:30 頃まで)

第41回 南西フォーラム 参加申込書

【送り先】 FAX : 042-770-9077

※ホームページからでも、お申し込みいただけます。

貴社名					ご希望の分科会に「○」を付けてください	
住所						
参加者	部署・役職名	氏名		17:10	A-1	B-1
	部署・役職名	氏名		17:35	A-2	B-2
連絡先	電話	FAX		18:00	A-3	B-3
	e-mail					
参加希望の方はチェックを入れてください	<input type="checkbox"/> 機器分析センター見学ツアー		<input type="checkbox"/> 交流会			

※個人情報取り扱いについて ・ご記入いただいた個人情報は南西フォーラムに関する情報提供と参加者募集のご案内、ご連絡に利用させていただきます。 ・個人情報は、取扱目的以外に利用したり第三者に提供することはありません。